学校づくりの一員として
one of them 2
続日々の雑記帳　№2　２００４．４．１９　by　ｙｏｓｈｉｋｉ

子どもの事実のとらえ方

新学期二週間目。一人ひとりの子どもの実像がいろいろ見えてきます。

『つ』の字がうまく書けへん。」とライオンのような声で泣きわめくK君。イスの上でカメさんみたいにうずくまって固まってしまうN君。（ともに一年生）

「あんたの絵、下手やなあ」

なんてことをぶしつけに言って自分から友達関係を悪くしてしまう子もいるようです。

こんなふうに、子どもの生の姿が見えてくるとき、我々教師はどちらかというと否定的な方に目がいきます。

「この子、全然話聞けへんわ。」

「あの子すぐ手が出る困った子。」

「変な子。訳分からんことする。」

なんていうふうに。

ぼやきたくなる気持ちは重々分かりますが、「変な子」「困った子」という言葉はこの布小では禁句にしてほしいと思っています。そういうスタンスに立っている限り、子どもとつながることはできないし、子どもの中に眠っている良い芽もつぶしてしまうような気がするからです。

「全然話が聞けない子やけど、この話は、意外に静かに聞いてくれたわ。」

「ちっともじっとしてないあの子が、この時間だけは落ち着いてたなあ。」

というふうに、ちらっと見えた子どもの良さを喜ぶプラス思考のスタンスでいきましょう。その方が教師のストレスもたまらないと思います。

「子どもがかわいいと思える事実をいっぱい見つけたい。」

と言っておられたY先生の言葉に私は大賛成です。

で、これまでに私が出会ったかわいい子どもの事実を書きます。

［昇降口掃除の４年生］

「先生、みざら洗うのにホース使っていい？」

「うーん。まあ、ためしにやってみて。」

ふざけて遊んだりしないかな、と思いながら見ていると、外に運び出したみざらに水をかけて一生懸命ぞうきんがけ。

こんなにがんばって掃除してくれている子どもたちを疑ってごめんなさい。

［一年K・T君］

「卒園式の時の先生や」

入学式に私を見てぱっと言ったK・T君。

禽舎の掃除をしている私を見ながら、

「ぼくもやりたい。」

「今はあかんのや。」

「知ってる。鳥インフルエンザやろ。ほやけど、京都はもうだいじょうぶなんやで。」

「へえ、よう知ってるなあ！」と感心。

［フラワー委員会］

新しい委員会の子どもたちの手で植えてもらおうと残しておいたパンジー。

「みんなの考えたデザインでやって。」

「わかった。まかしといて。」と、あっというまにみごとなデザインのメイン花壇が完成しました。子どもの感性に脱帽です。

五年生担当の花壇は花が足らずイメージ通りにならなかったのが残念だけど、こちらも一生懸命やってくれました。